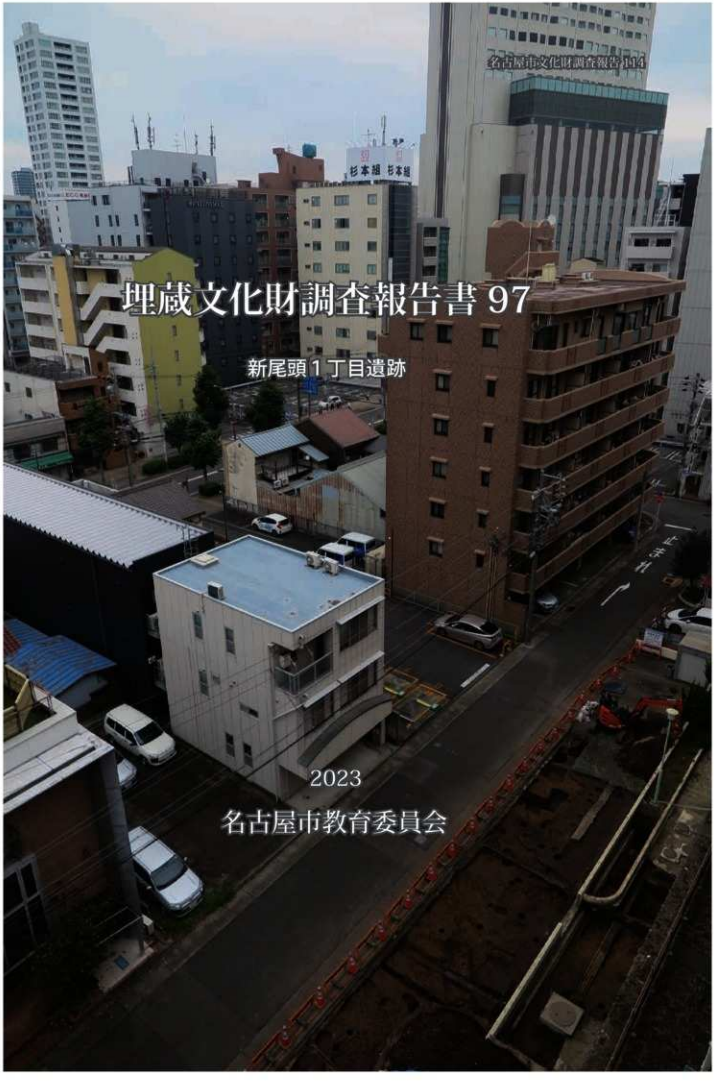


埋蔵文化財調査報告書 97

新尾頭１丁目遺跡

2023

名古屋市教育委員会

例言

1、本書は、名古屋市熱田区新尾頭一丁目に所在する新尾頭１丁目遺跡の発掘調査報告書である。

2、本調査は市営住宅新尾頭荘の建替にともなうもので、名古屋市住宅都市局住宅部住宅整備課からの依頼を受けて名古屋市教育委員会文化財保護室が実施した。

3、調査概要は以下の通りである。

調査期間　令和３年８月10日～９月30日　　調査担当者　纐纈茂　林田愛美　伊藤厚史

調査面積　130㎡

4、本書に使用した座標は、世界測地系第Ⅶ系、水準値は東京湾平均海面 (T.P.) である。

5、調査の実施及び本書の作成にあたっては、下記の方々に協力を得た。

市営新尾頭荘自治会　名古屋市住宅都市局住宅部住宅整備課　金子健一　河合君近 (敬称略・順不同)

6、遺物の整理作業は、調査担当者の他、安藤明子、入谷敦子、小川敦子、小浦美生、酒井史子、樋上佐知子が行った。

7、本書の執筆・編集は纐纈茂、林田愛美による。

8、調査の記録、調査遺物等は名古屋市教育委員会が保管している。

目次

第１章　位置と環境　3
　第１節　地理的環境　3
　第２節　歴史的環境　3
第２章　調査の経過　5
第３章　調査成果　5
　第１節　基本層序　5
　第２節　調査区グリッド　6
　第３節　検出された遺構　6
　　１．古代以前の遺構　10
　　２．近世以降、戦期までの遺構　10
　　３．戦後の遺構　11
　第４節　出土遺物　14
第４章　まとめ　14

抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書　　名	埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	新尾頭１丁目遺跡
巻　　次	97
シリーズ名	名古屋市文化財調査報告
シリーズ番号	114
編 著 者 名	纐纈茂　林田愛美
編 集 機 関	名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室
所　在　地	〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目1-1 TEL:052-972-3268　FAX:052-972-4202
発 行 機 関	名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室
所　在　地	〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目1-1 TEL:052-972-3268　FAX:052-972-4202
発行年月日	西暦 2023 年 (令和５年)3 月 31 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
新尾頭１丁目遺跡	愛知県名古屋市熱田区新尾頭１丁目 502 番	23100	12 - 26	35° 14′ 21″	136° 89′ 78″	2021.08.10 ～ 2021.09.30	130㎡	市営住宅仮設店舗の建設

第１章　位置と環境

第１節　地理的環境

名古屋市の地形は、東部の丘陵地、中央部の洪積台地（熱田台地）、北西部の沖積地、南西部の干拓・埋立地にわけられる。このうち新尾頭一丁目遺跡は、中心市街地が立地する熱田台地上に位置しており、その南部に位置する。

今回の調査地点は熱田区新尾頭一丁目に位置し、周辺は、JR・名鉄・地下鉄の駅が集まる金山総合駅をはじめ、商業施設やビルが建ち並び、市内の公共交通の要として開発が進められてきた地域である。

第２節　歴史的環境

新尾頭一丁目遺跡は、名古屋城を西北端として南端の熱田神宮に向かって半島状にのびる熱田台地の西縁に位置する。熱田台地上には、竪三蔵通遺跡、玉ノ井遺跡、高蔵遺跡、伊勢山中学校遺跡、正木町遺跡など、旧石器時代～古代にかけての遺跡が分布し、長期にわたって人間が活動した痕跡が残されている地域である。特に古代においてはすぐ北側に立地する東海地方最古の古代寺院・尾張元興寺跡のほか、竪穴建物跡や大型建物跡、溝などが調査されている正木町遺跡・伊勢山中学校遺跡など郡衙との関連性が指摘される遺跡が広がっている。

中世段階となると熱田社と熱田の町に湊町・社家町が形成されることになり、遺跡周辺は熱田社神域の域の北側にあたる。遺跡の南東 300m ほどに位置する金山神社は承和年間（834- 847）、熱田神宮の鍛冶職であった尾崎善光が勧請したと伝えられ、金山周辺は「尾張鍛冶発祥の地」とも称され、中世から近世にかけて刀剣や鍔などの職人が居住したという。

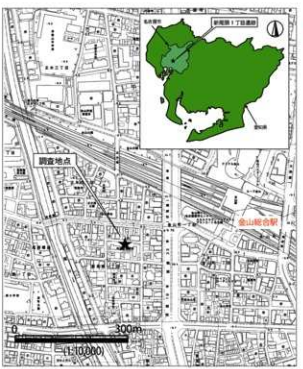


図１　遺跡の位置

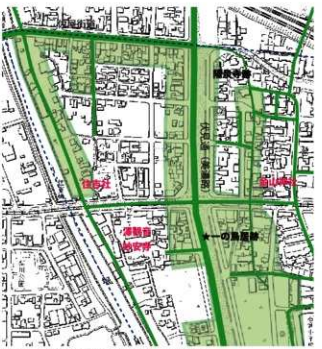
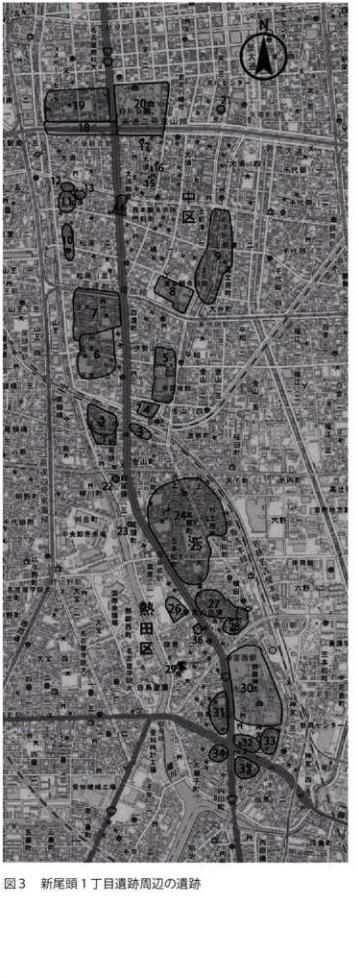


図２　明治期の路と名古屋・熱田境界

昭和 30 年の都市計画基本図に愛知県図書館所蔵の明治前期の「熱田区分図」の街路と（緑実線）と町家の範囲（薄黄緑範囲）を重ねた。銀の破線が町境。


中区
熱田区
名古屋市立熱田高等学校
名古屋市立熱田中学校
名古屋市立熱田小学校
名古屋市立熱田幼稚園
名古屋市立熱田図書館
熱田神宮
熱田神宮宝物殿
熱田神宮徳川美術館
熱田神宮文化殿
熱田神宮宮宴会場
熱田神宮宮宴会場
熱田神宮宮宴会場

第２章　調査の経過

名古屋市では昭和 45 年度以前に建設された市営住宅を建替え対象とし、耐震性の有無、入居状況、移転先の確保等から判断して、順次建替事業を実施している。その中で、新尾頭１丁目遺跡内に立地する新尾頭荘の建て替え事業も計画された。令和元年度に、事業主体となる名古屋市住宅都市局住宅部住宅整備課（以下住宅整備課）より、名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室（以下文化財保護室）へ遺跡の有無照会があった。文化財保護室では令和元年９月５日から 11 日にかけて市営住宅一帯の試掘調査を実施した。その結果駐車場をはじめ部分的に遺物包含層並びに遺構が残されていることが確認された。

この結果を受けて、住宅整備課では埋蔵文化財への対応に伴う必要性から、建て替え事業に PPP/PFI 手法は導入しない方針とした。

令和３年４月、住宅整備課より市営住宅の店舗部分の仮設建物の建設にあたり、文化財保護法第 94 条第１項に基づいた届け出の提出があった。これを受けて、令和３年５月に文化財保護室長より住宅建設課長宛て発掘調査協議を申し入れた。６月には協議回答があり、６月９日に住宅都市局長より教育長あて発掘依頼の提出があった。

調整の結果、現況の駐車場施設の撤去は住宅都市局が発注し、アスファルトおよびインターロッキング撤去後に発掘調査を開始することとなった。

令和３年８月 10 日より発掘調査を開始した。調査区東側より表土除去を行い、調査区西側の余地に排土を積み上げた。調査区北側部分は削平されており、また排土置き場脇の駐車場擁壁を活用して排土が効率的に積み上げることができたため、折り返しなしで調査を実施することができた。９月 10 日までに SX05 を残した遺構の掘削を終え、全景等写真撮影を行い、９月 15 日までには SX05 を含めたすべての遺構の調査を終えた。

調査終了後、水洗作業等を行い、令和４年度に遺物実測等の作成等、報告書作成にあたる作業を実施した。

第３章　調査成果

第１節　基本層序

調査範囲のうち北側の駐車場範囲については、上面が削平されておりアスファルト直下のバラス層を外すと、場所によってはすぐに地山が現れる状況であった。一方で駐車場のコンクリート擁壁を隔てた南側は、包含層や遺構埋土が比較的良好に残されていた。図４に SX01 付近の土層堆積状況を示した。インターロッキングブロックの下にはバラスが 10 ㎝ほど敷設され、その下には木造であった旧新尾頭荘の基礎などが確認でき、戦後整備された市営住宅が建っていた当時の旧地表面と考えられる土層が確認されている。近代以降の掘削が多く、本来の堆積土層が残されているところは少ないが、残りの良いところでは 20 ㎝ほどの厚さで遺物包含層が堆積している。

写真１　SX01A 土層堆積状況

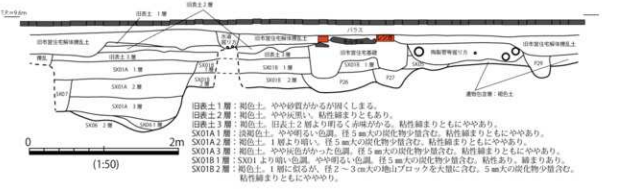


図４　SX01 付近土層堆積状況

図５　グリッド配置図（1/1000）

第２節　調査区グリッド

発掘調査にあたって、今後市営住宅周辺での工事等が想定されるため、市営住宅全域を対象としたグリッドを設定した。グリッドは主に包含層掘削の際の遺物取り上げ時の単位とすることを想定し、4m × 4m のグリッドとした。これは今後の調査で 2m 中グリッド、1m 小グリッド等の設定を想定したものである。

グリッドは北西を基準として西から東西方向に A ～ Z、北から南北に 1 ～ 15 の数字の組み合わせで呼称することにした。グリッドの基準となる北西隅のグリッドを A １グリッドとし、そのグリッドから東に A ２、A3、A4、南に B1、C1、D １とグリッド名を割り振った。グリッドの基準は平面直角座標系 7 系の国土座標を基準とし、A1 グリッド北西隅の座標値は X ＝－ 95,130.000、Y ＝－ 24,560.000 である。

第３節　検出された遺構

今回の調査では地山上面でピットをはじめとした多数の遺構を検出している。ただし包含層を含めて大きく削平されていることもあり、古い時期の遺構は限定的である。

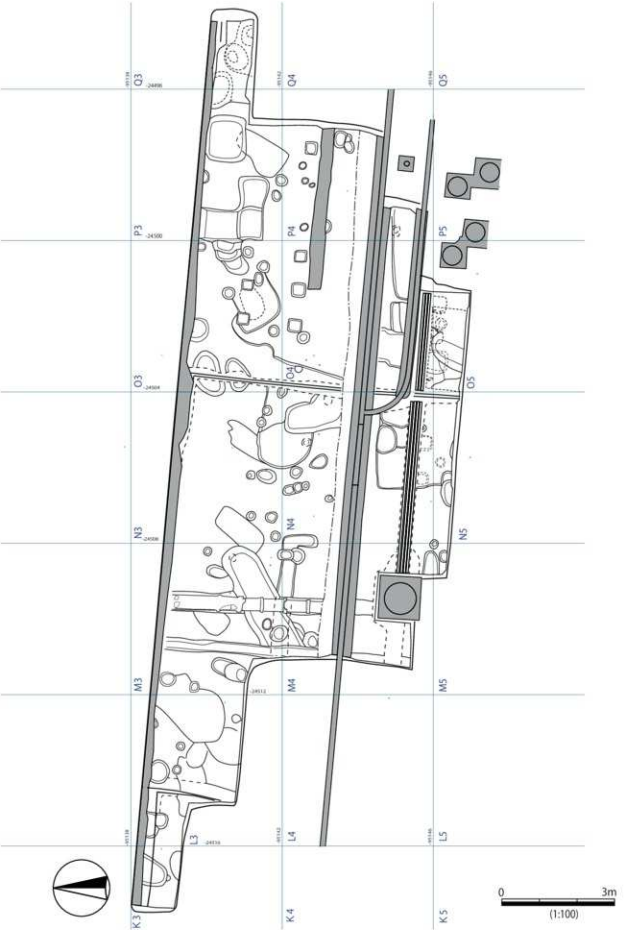


図6　調査区平面図

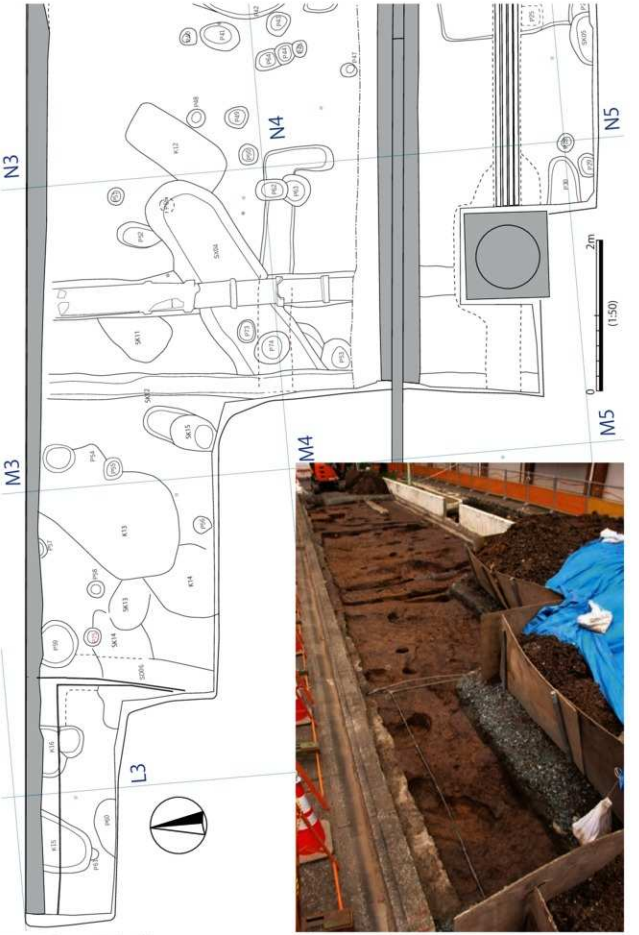


図7　調査区平面図（西半）

写真2　調査区全景（西から）

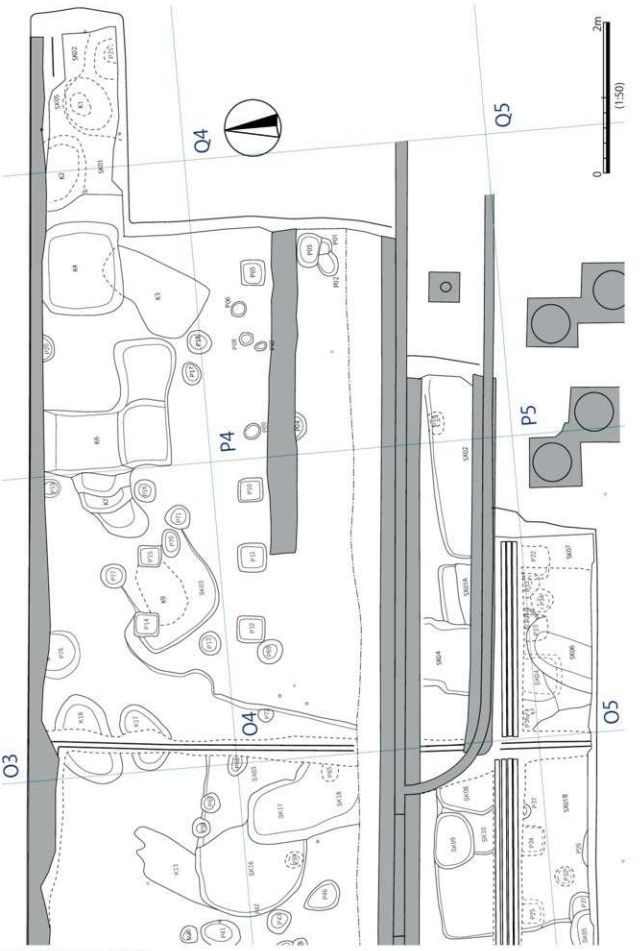


図8　調査区平面図（東半）

1．古代以前の遺構

新尾頭１丁目遺跡は尾張元興寺跡遺跡に隣接しており、古代の遺跡として知られている。今回の調査では表土以下包含層の大部分が失われていたが、一部古代の遺構が確認された。

SX04（M3・M4Gr）

地山上面で検出した。巾 1.0m、調査区内で確認できる長さが 3.1m を測る。上面を削平されている可能性もあるが、深い部分で検出面から 0.35m ほど掘り込んでいる。緩やかに西に向かって深くなっている。埋土は黒味が強く締まるが出土遺物は少ない。遺構の規模等から方形周溝墓の一部である可能性も考えられる。

SX03、SK16 ～ 18（N3・N4・O3・O4Gr）

表土除去後の遺構検出作業中に地山上面で確認した遺構。当初は黒褐色プラン全体を SX03 として遺構精査および半截作業の過程で、下面に SK16 ～ 18 の３基の遺構が重複していることが確認された。

SX03 は地山を浅く掘り込んだ遺構で、SK16 ～ 17 の各遺構の上面を削り取る形で構築されている。遺構として掘りあがった範囲は東西 2.1m 南北 1.4m 程度の規模であるが掘り込みは非常に浅い。出土遺物は非常に少ないが、土師器の甕底部と考えられる破片が出土しており、竪穴建物跡の可能性も考えられる。

SK16 から 18 はいずれも黒味の強い褐色土の埋土を持ち、古代以前の遺構と考えられる。特に SK18 は現地作業の段階では SK17 は重複した遺構で、SK18 が SK17 を切る関係にあると判断していたが、多量に焼土を含む埋土で、土師器甕焼土と伴って出土している。カマド状の施設である可能性も考えなければならない。

SK06（O5Gr）

SK01A の底面で検出した遺構。SX01A に遺構上面を削り取られている可能が高く、遺構の性格は断定できないが、確認できた部分は現況で浅い溝もしくは土坑状の形状である。杯身や把手付鉢などが出土している。遺構底面のレベルが T.P. ＝ 8.1m 前後であり、他の遺構より深い位置にあたる。本来は深い掘り込みを持った遺構であることが考えられる。

SK03（O3Gr）

表土除去後の遺構検出作業中に地山上面で確認した遺構。中央を K9 とした近代以降の撹乱で壊されている。また P14・15 等、戦後の市営住宅に関わるピットも SK3 上面を掘り込んでいるのが確認できた。黒味が強い埋土で浅い掘り込みを持っていることから、竪穴建物跡の一部の可能性も考えられるが、やや不整形であり断定はできない。周辺で確認している SK19・SK20 も古代の遺構と考えられる。

2．近世以降、戦期までの遺構

出土遺物から、近世の生活痕跡は 19 世紀遺構のものに限られているようである。側の佐屋街道に面した町家の裏手にあたり、生活残滓を廃棄した廃棄土坑と考えられるものが多い。

SX01（N4・N5・O3・O4Gr）

調査区中央南側の駐車場の擁壁周辺の掘り下げ作業時に検出した。表土除去の際、排土除去の兼ね合いから、駐車場擁壁の一部、花壇の部分から調査を進めたが、その部分で地山を確認し、大型の土坑として

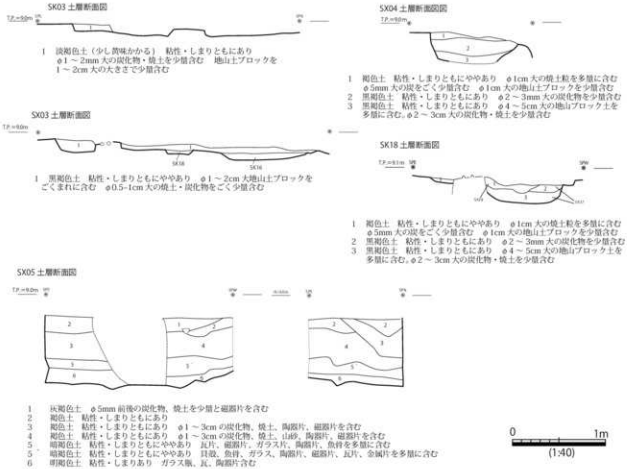


図9　各遺構土層断面図

確認したのが SX01 である。掘り下げを進めると複数の遺構が調査復していることを確認し、中央に深く掘り込んだ部分を SX01A、西側の浅い部分を SX01B とした。また花壇内で SX01A の東側に重複した部分を SX02 とした。このほか防空壕と考えられ、戦災ガラが大量に埋められた SK04 などが重複している。SX01A から出土する遺物は幕末の所産のものが中心となる。また貝なども投棄されていない。土坑規模に比較して出土陶磁器はやや少ない。

SX05（P3・Q3Gr）

調査区北東隅で検出した。この付近から表土除去作業を開始したが、比較的黒味の強い埋土が広がっていたため、当初東側を SK01、西側を SK02、そのほかに K1、K2 として掘り込みを理解していた。結果掘りあがった形状から、大型の廃棄土坑の埋土を掘り返し複数回にわたって生活残滓を廃棄した痕跡であると判断した。廃棄土坑全体を指して SX05 とした。出土した遺物は近代のものが大部分であり、一部に近世段階まで遡るものが認められる。シジミ、カキ、ハマグリ等の貝も含まれている。

K6（P3Gr）

戦時中に構築された防空壕と考えられ、西側にステップ状の施設が削り出されている。埋土中には瓦が大量に廃棄されており、焼土が大量に含まれていた。また壁や床面も焼けこんでおり、空襲後、短時間の間に片づけられ埋められてものと考えられる。SK04、K4 も防空壕と考えられる施設である。

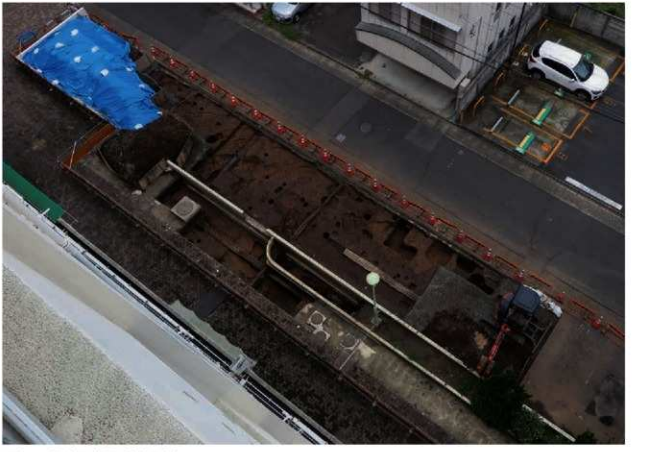


写真 3　調査区全景（南東から）

写真 4　SX04 完掘（北東から）

写真 5　SX04 埋土の状況（北から）

写真 6　SX03 付近完掘状況（東から）

写真 7　SX03 半截状況（北から）

写真 8　SK06 遺物出土状況（北から）

写真 9　SK03 完掘（南から）

写真 10　SX01A 完掘状況（西から）

写真 11　SX01B 完掘状況（北西から）

写真 12　SX05 付近 K1、K2 完掘（南東から）

写真 13　SX05 完掘（東から）

写真 14　K6 完掘状況（南西から）

写真 15　木造市営住宅基礎検出状況（西から）

3．戦後の遺構

遺跡周辺が空襲被害にあっていることはK6などの焼土を含む遺構の存在から想定ができる。戦後遺跡周辺には木造平屋の市営住宅が整備されている。調査区内でもオレンジ色の客土とレンガ・モルタルを中心とした基礎の構築が確認される。また、M列Grに南北でのびるSD02・03は陶製管が埋設されており、木造市営住宅時代のライフラインの可能性があり、住宅間を抜ける小径が通っていた可能性が高い。昭和44年に現在の鉄筋コンクリート造の市営住宅が竣工しており、それ以降は舗装され、水道管の敷設など限られた新規掘削が行われているのみである。

第4節　出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、古墳時代6世紀後半の遺物が中心であった。尾張元興寺跡に隣接しているものの古代瓦等の出土は見られなかった。

陶磁器類は瀬戸・美濃産の陶器・時期が中心である。SX01Aの出土遺物は磁器椀類が中心で、陶胎染付の皿なども伴う。丸椀の染付でも確実に近代まで下がるものも含まれている。

SX05については近代を中心とした遺物であるが、多色銅板やゴム印を押した製品、カドミウムなど工業的釉薬の使用は少なく、20世紀代まで下るものは少ないと考えられる。鍋や焙烙などの製品も多く、当時の什器類の組み合わせがよく表れているものと考えられる。また土人形もまとまって出土している。名古屋では近代に盛んに土人形が製作されており、神社などの縁日で売られていたという。透明釉を施した箱庭に用いるものや、縁起物のほか瀬戸などで焼かれたノベリティの製品も一部にみられる。同一器種が多いわけではないので、内職等のために持ち込まれてものでなく、購入され廃棄されてものと考えられる。135などはかなり大型の製品で、前後2パーツを組み合わせて仕上げている。

第4章　まとめ

今回の調査地点は市営住宅整備の過程で削平を受けている可能性があり、遺物の出土量も少なかった。一方で古墳時代の須恵器や土師器が出土する遺構が少なからず検出できた。令和元年度の試掘調査の際には、市営住宅南側の駐車場棟で包含層が堆積している状況を確認している。今後進められる市営住宅建て替えの際においても事業計画によっては発掘調査が必要となることもある。今後遺跡の性格等についての所見が得られることに期待したい。

また今回は幕末から近代にかけての佐屋街道沿いの町家の廃棄土坑を複数期調査することができた。SX01Aは幕末のこの地域の陶磁器の様相、特に名古屋周辺村落の一般的な遺物の在り方を現しているといえよう。名古屋城下の竪三蔵通遺跡や白川公園遺跡の幕末の出土遺物と共通する点も多いが、瀬戸・美濃以外の産地の製品や、特殊な器種などは少ない。また近代のガラス製品も薬瓶を除くと非常に少ない。幕末から近代におけるこうし地域的な状況を、少しずつ拾い上げていくことが、当時の生活実態を考えていくうえで重要となってくるであろう。

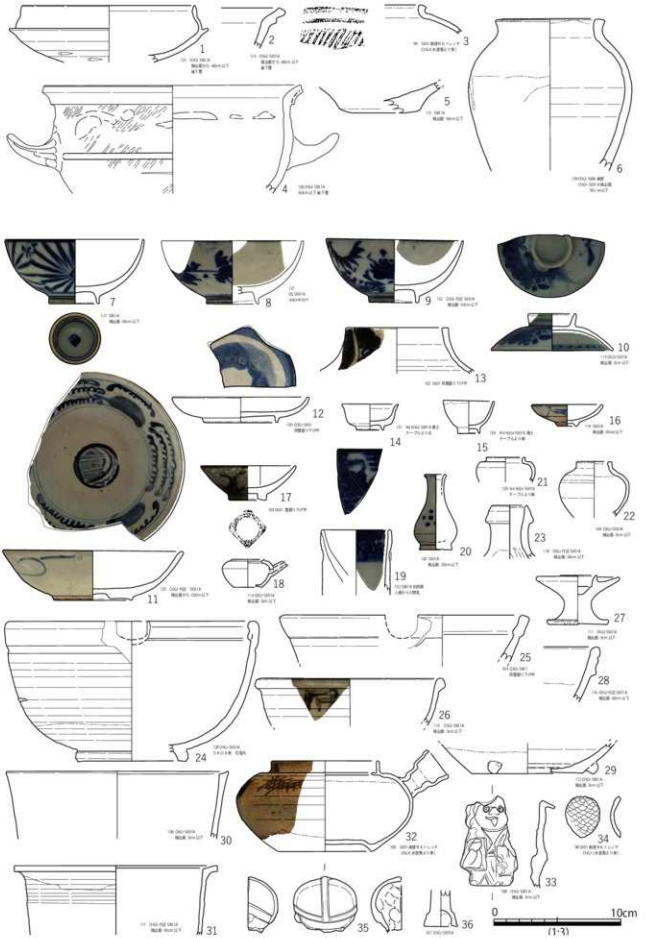


図10　出土遺物その1（SX01周辺出土遺物）

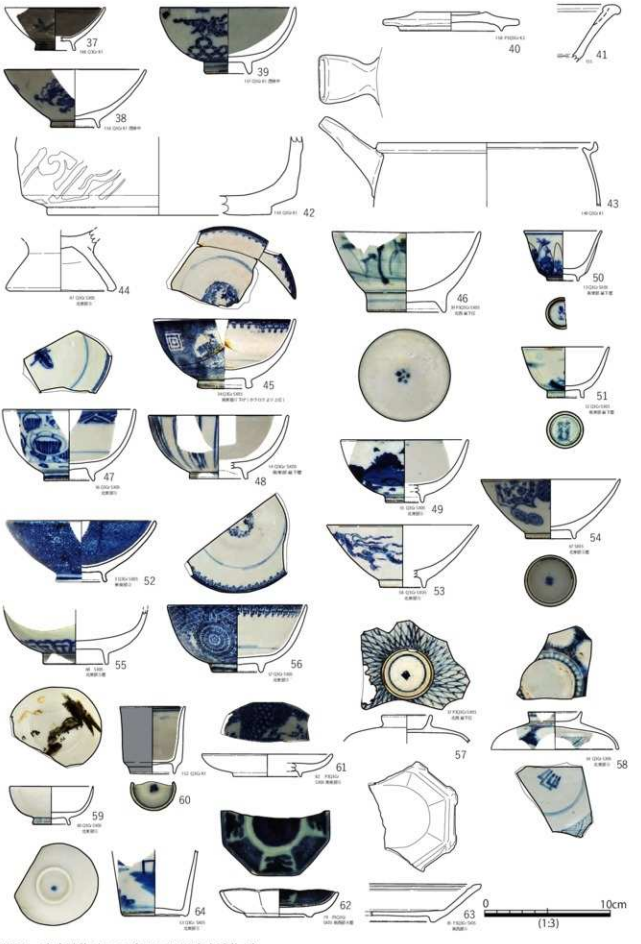


図 11　出土遺物その 2（SX05 周辺出土遺物 1）

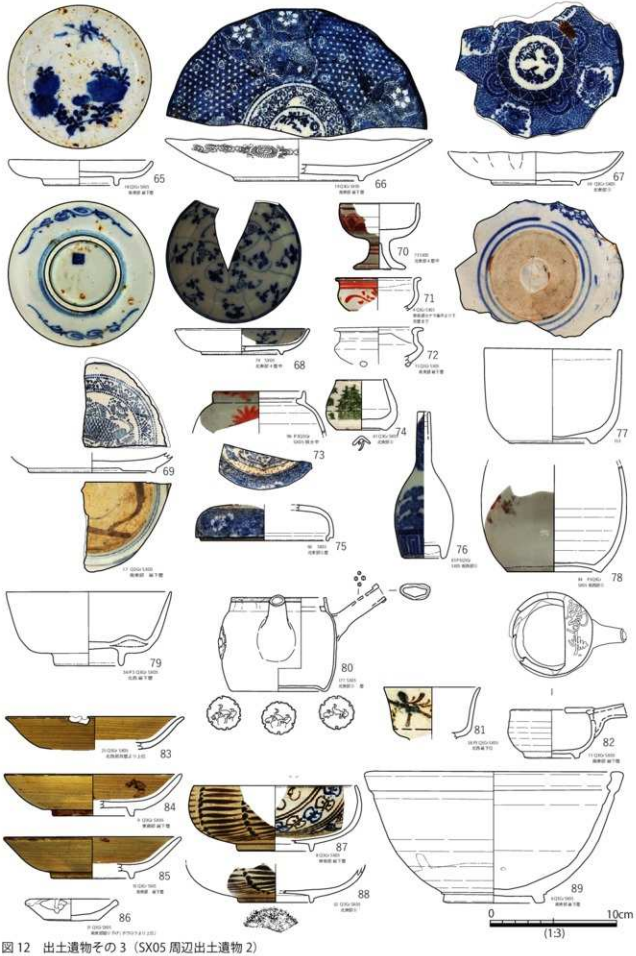


図 12　出土遺物その 3（SX05 周辺出土遺物 2）

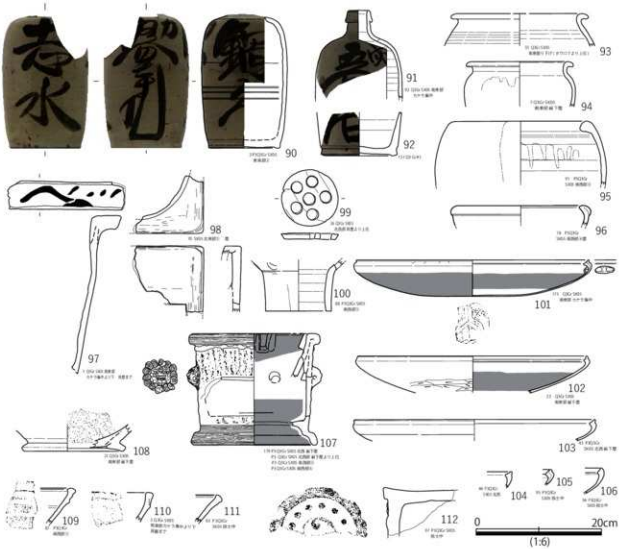


図 13　出土遺物その 4（SX05 周辺出土遺物 3）

表 2　出土遺物観察表その 1

遺物番号	実測番号	遺構		区分	器種	部位	法量（cm）			調整等	特記事項
		調査区・グリット	遺構名・層位等				口径	底径	器高		
1	125	O5	SX01A 柵出面 -60cm 以下 最下層	須恵器	杯身	口縁部～底部	(13.6)	(4.5)	(15.6)	外面：回転ケズリ 内外面：回転ナデ	外面：自然釉
2	124	O5	SX01A 柵出面 -60cm 以下 最下層	土師器	甕	口縁部	-	-	-	外面・口縁部：回転ナデ 外面：タタキ	
3	99	O5	SX01 南壁（木道附近より東）	陶器	壺	口縁部				口縁部：回転ナデ	外面：緑状文、鉄釉 内面：口縁部：鉄釉
4	126	O5	SX01A 柵出面 -60cm 以下 最下層	須恵器	甕	口縁部～体部	(20.4)	-	残（8.5）	外面：タタキ、口縁部：回転ナデ、肩部：ヘラケズリ	内面：指頭圧痕
5	115	O5 付近	SX01A 柵出面 -50cm 以下	土師器？	甕	底部		(6.2)	残（2.4）		全体的に摩滅
6	178		SX01A 礼	磁器	なべぶた		8.6		残（11.9）	外面・口縁部：回転ナデ	外面：鉄釉、縁釉 内面：縁釉、釉剥離りあり、使用痕あり
7	121	O5 付近	SX01A 柵出面 -50cm 以下	磁器	碗	口縁部～底部	10.9	4.0	5.0	高台：回転ケズリ	内面～外面・底面：透明釉 外面：染付
8	127	O5	SX01A 柵出面 -60cm 以下 最下層	磁器	碗	口縁部～底部	(11.2)	(4.1)	4.9	高台：回転ナデ	内面～外面・底面：白釉 外面：染付
9	122	O5 付近	SX01A 柵出面 -50cm 以下	磁器	碗	口縁部～底部	10.8	4.0	5.0	高台：回転ケズリ	内面～外面・底面：白釉
10	113	O5	SX01 柵出面 -3cm 以下	磁器	蓋	口縁部～底部	-	-	2.9	高台：回転ナデ	内面～外面：透明釉・染付 底面：透明釉
11	123	O5 付近	SX01A 柵出面 -50cm 以下	磁器	皿	口縁部～底部	(14.2)	6.2	3.9		内面～外面・底面：白釉 内面～外面：染付
12	105	Q3	SK01 井戸廃棄り下げ中	磁器	皿	口縁部～底部	(10.8)	(5.8)	2.0		内面～外面・底面：白釉 内面：印花、染付、割花
13	102	Q3	SK01 井戸廃棄り下げ中	陶器	壺？	口縁部	(8.0)	-	残（3.6）	内面・口縁部：回転ナデ	外面：白化粧土、灰釉、鉄絵、竹状沼紋、植物文 口縁部：白化粧土
14	131	-	SX01B 北西隅 土盛かりの最尾	磁器	碗	口縁部～底部	(4.4)	2.1	2.0	型成形	内面～外面・底面：透明釉
15	130	-	SX01B 北西隅 土盛かりの最尾	磁器	碗	口縁部～底部	4.0	1.8	2.6	型成形？	内面～外面：白釉 底面：透明釉
16	119	O5 付近	SX01A 柵出面 -50cm 以下	磁器	梅小皿	口縁部～底部	(5.6)	1.7	1.7		内面～外面：透明釉 外面：染付
17	103	Q3	SK01 井戸廃棄り下げ中	陶器	小杯	口縁部～底部	7.4	3.0	2.7	高台：ケズリ	内面～外面・底面：灰釉 外面：鉄絵、白化粧土、梅文 口縁部：口縁、高台端部に釉剥

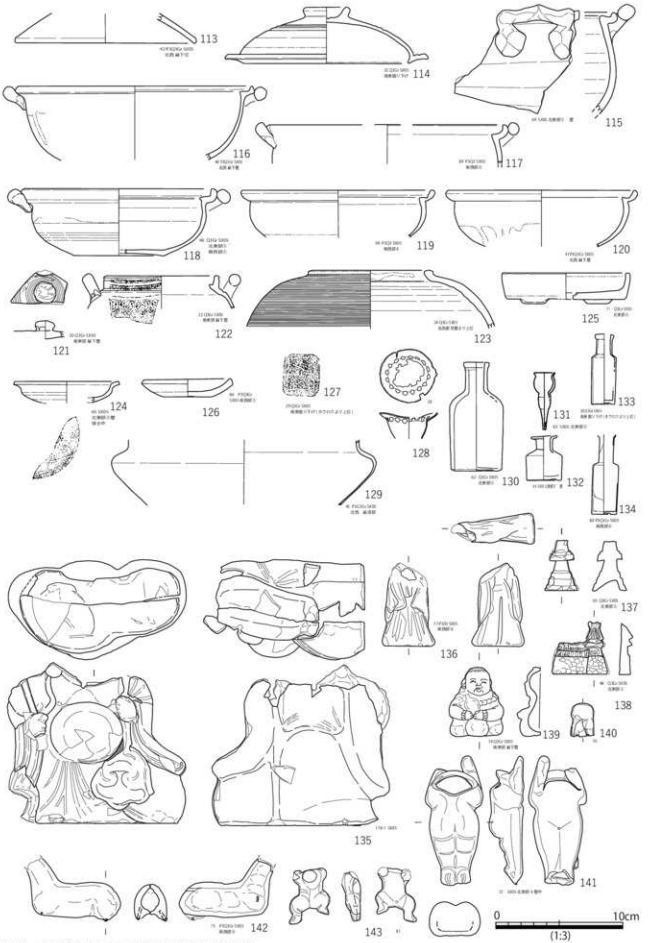


図 14　出土遺物その 5（SX05 周辺出土遺物 4）

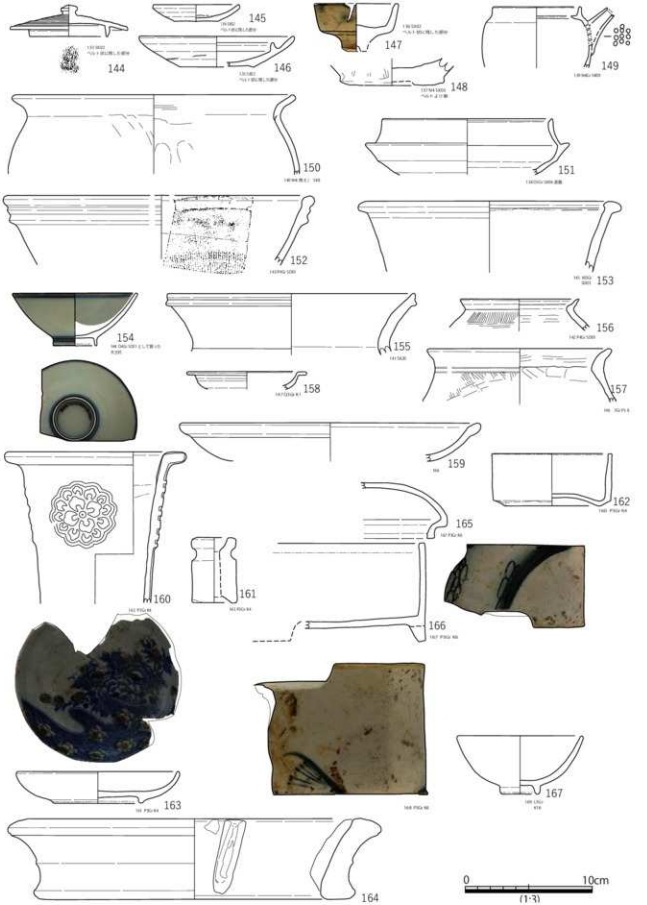


図 15　出土遺物その 6（その他の遺構出土遺物 1）

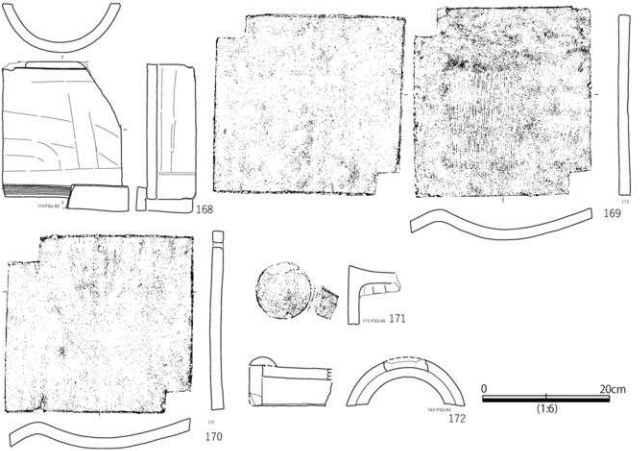


図 16　出土遺物その 7（その他の遺構出土遺物 2）

表 3　出土遺物観察表その 2

遺物番号	実測番号	調査区・グリッド	遺構 遺構名・層位等	区分	器種	部位	法量（cm） 口径	底径	器高		調整等	特記事項
18	114	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	磁器	丸皿 染付	口縁部～底部	2.6	2.2	2.2	脚部：4.0 全長：(5.5)	染付：型成形	内面～外面：透明釉
19	132	-	SX01B 北西隅 土面からの検見	磁器	椀	口縁部～体部	(5.6)	-	残 (5.1)			染付け、内外あり
20	129	O5 付近	SX01A 柵列跡 -50cm 以下	磁器	小瓶	完形	1.7	2.4	5.9		高台：回転ナデ 底部：回転糸切	内面～外面：透明釉、染付
21	129	-	SX01B 北西隅 土面からの検見	土製品？	鍔	口縁部～体部	(3.0)	(4.6)	残 (2.0)		内外面・口縁部：回転ナデ	外面：赤彩？
22	109	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	陶器	小壺	口縁部～体部	2.8	-	残 (4.4)		内面・口縁部：回転ナデ	外面：透明釉
23	118	O5 付近	SX01A 柵列跡 -50cm 以下	陶器	徳利	口縁部	(3.8)	-	残 (4.1)			
24	128	O4	SX01A（土壙内 SK04 の東に点在する部分）	磁器	鉢	口縁部～底部	(20.0)	(8.6)	10.9		内外面・口縁部：回転ナデ 高台：回転ケズリ	内面～外面：灰釉、釉のちぢれあり
25	104	Q3	SK01 柱根跡 9 下層中	陶器	片口	口縁部	(19.6)	-	残 (3.8)			内面～外面：灰釉
26	110	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	陶器	鉢	口縁部	(15.0)	-	残 (3.8)			内面～外面：灰釉　外面：鉄釉
27	111	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	陶器	平底	口縁部～底部	-	4.7	3.9	受部径 8.5	底部：回転ナデ、回転糸切 受部：回転ナデ	内面～外面：灰釉
28	116	O5 付近	SX01A 柵列跡 -50cm 以下	陶器	鉢	口縁部	-	-	-			内面～外面：鉄釉　内面：鉄釉
29	112	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	陶器	土瓶	底部		(8.6)	残 (2.4)		外面・底部：回転ケズリ	外面・底面：鉄釉　内面：鉄釉
30	106	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	土師器？	鍋	口縁部	(17.4)	-	残 (5.3)			
31	117	O5 付近	SX01A 柵列跡 -50cm 以下	陶器	鍋	口縁部	(16.0)	-	残 (5.4)		外面：回転ナデ、回転ケズリ 内面：口縁部：回転ナデ	外面：自然釉 内面：土付着
32	100	O5	SX01A 柵列跡 -50cm 以下	陶器	急須	口縁部～底部	(8.4)	7.2	(7.9)		外面・高台：回転ケズリ、ナデ 内面・口縁部：回転ナデ	内面～外面：灰釉　持ち手：灰釉、鐵部釉 外面・底面：煤付着、二次的被熱
33	108	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	土製品	土人形	頭部	手子：7.1	目コ：4.5	2.0			
34	98	O5	SX01 南壁（水道管よりの東）	土製品	土人形		手子：3.2	目コ：2.8	0.8			
35	101	Q3	SK01 柱根跡 9 下層中	土製品	土人形		手子：4.4	目コ：5.0	2.0		型成形	
36	107	O5	SX01 柵列跡 -3cm 以下	土製品			-	2.5	残 (2.8)		型成形	外面：透明釉・緑釉
37	148	Q3	K1	陶器	小杯	口縁部～底部	(8.0)	(3.3)	3.4		高台：回転ケズリ	高台（外部）焼れあり　内外面：透明釉
38	156	Q3	K1 溝掘中	磁器	椀	口縁部～底部						
39	157	Q3	K1 溝掘中	磁器	椀	口縁部～底部						
40	158	P3Q3	K2	陶器	段重蓋	鈕部～口縁部						
41	155	Q3	K1 溝掘中	陶器	徳利	口縁部						
42	150	Q3	K1	陶器	鍋？	口縁部～底部						
43	149	Q3	K1	陶器	行平	口縁部～底部	(17.6)	-	残 (5.1)	全長：(21.7)	口縁部：回転ナデ	内面～外面：灰釉　外面：二次的被熱 内面：煤付着
44	47	Q3	SX05 北東部⑤	土師器？	鍋	鍋部	-	(8.7)	残 (3.9)		内面：横方向に板ナデ、段 地部：ナデ　つまみ（上面） 板ナデ、（内側）：ナデ	外面は煤状の強しく調整等不明 外面は煤付の強しく調整等不明

表4　出土遺物観察表その3

遺物番号	実測番号	調査区・グリット	遺構名・層位等	区分	器種	部位	法量（cm） 口径	底径	器高		調整等	特記事項
45	34	Q3	SX05 南東部 層ウ下げ	磁器	碗	口縁部～底部	(11.2)	(4.2)	5.5		高台：回転ケズリ 底面：ナデ	内面～外面・底面：透明釉　高台・底面：露胎 貫 内外面：銹紙、松竹梅
46	39	P3Q3	SX05 北西部 層下位	陶器	広東碗	口縁部～底部	11.8	6.1	6.3		高台：回転ナデ	内面～外面・底面：呉釉 or 透明釉、千鳥釉 内面：染付、蝋燭山水文
47	56	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	碗	口縁部～底部	(10.6)	(4.1)	5.65			内面～外面：透明釉、染付（手描き） 底面：透明釉　高台（段地部）：無施釉
48	14	Q3	SX05 南東部 層下層	磁器	碗	口縁部～底部	(11.2)	(4.6)	5.1		高台：回転ケズリ	内面～外面：透明釉、染付　底面：透明釉
49	55	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	碗	口縁部～底部	(10.2)	(3.1)	5.0			内面～外面：透明釉、染付（手描き） 高台（段地部）：無施釉　高台（内側）：透明釉
50	13	Q3	SX05 南東部 層下層	磁器	小皿	口縁部～底部	6.2	2.6	4.0		外面：しのぎ 高台：回転ケズリ	内面～外面：透明釉、染付
51	12	Q3	SX05 南東部 層下層	磁器	小皿	口縁部～底部	(7.0)	(3.0)	4.0		高台：回転ケズリ	内面～外面・底面：透明釉、染付
52	3	P3Q3	SX05 南西部②	磁器	碗	口縁部～底部	11.9	4.2	4.8			外面：透明釉、型紙摺絵染付　内面：透明釉 底面：染付　高台：露胎
53	58	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	碗	口縁部～底部	(11.9)	(3.6)	5.0			内面：透明釉、銅版染付　内面：透明釉 高台（段地部）：無施釉　高台（内側）：染付
54	67	-	SX05 北東部⑤	磁器	碗	口縁部～底部	11.0	4.0	5.7			外面・底面：透明釉、銅版染付　内面：透明釉 高台（段地部）：無施釉
55	68	-	SX05 北東部⑤	磁器	碗	体部～底部	-	(5.2)	残（4.3）			内面～外面・底面：透明釉　外面：下部・高台：染付（手描き）　高台（段地部）：無施釉
56	57	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	碗	口縁部～底部	(11.1)	(4.15)	5.35			内面～外面：透明釉、染付（摺絵） 底面：透明釉　高台（段地部）：無施釉
57	37	P3Q3	SX05 北西部 層下位	磁器	碗	底部	-	4.1	残（2.2）		外面・高台：回転ケズリ	内面～外面・底面：透明釉 高台（内側）：染付（手描き）、蝋文
58	54	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	蓋?	口縁部～底部	(10.0)	-	3.0	つまみ径（4.2）		内面～外面：透明釉、染付（手描き） つまみ：透明釉
59	60	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	碗	口縁部～底部	6.55	2.95	(3.05)			内面～外面：透明釉　内面：上絵付 底面：透明釉、染付　高台：染付
60	152	Q3	K1	磁器	鉢	底部	(5.2)	3.6	5.4			内面：青磁釉、内面・底面：透明釉
61	82	P3Q3	SX05 南西部①	磁器	皿	口縁部～底部	(10.3)	(5.4)	1.8			内面～外面：透明釉、染付（摺絵） 底面：透明釉　高台（段地部）：無施釉
62	79	P3Q3	SX05 南西部④	磁器	皿	口縁部～底部	9.4	5.25	2.2			内面～外面・底面：透明釉 内面：蝋燭、染付　高台（段地部）：無施釉
63	85	P3Q3	SX05 南西部②	磁器	皿	口縁部～底部	-	-	3.0			内面～外面・底面：白釉　内面：一部鉄釉 高台（段地部）：無施釉
64	53	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	徳利	体部～底部	-	5.0	残（5.15）		底部：ナデ	内面：透明釉、染付（手描き）　内面：透明釉 底面：無施釉　蛇の目高台
65	18	Q3	SX05 南東部 層下層	磁器	皿	口縁部～底部	11.4	6.0	2.0		高台：回転ケズリ	内面～外面・底面：透明釉、染付 内面：パラと菊文　外面：唐草文　高台：露出 高台内：角銘
66	19	Q3	SX05 南東部 層下層	磁器	皿	口縁部～底部	(21.0)	(10.2)	3.3			内面～外面・底面：透明釉　高台：露胎
67	59	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	皿	口縁部～底部	(13.8)	(7.0)	2.6		高台～底部：回転ヘラケズリ	内面～外面：透明釉、染付（摺絵）底面：透明釉　高台（段地部）：無施釉 蛇の目高台
68	74	-	SX05 北東部④	磁器	皿	口縁部～底部	10.6	6.4	2.0			内面～外面：透明釉、染付（手描き・摺絵） 底面：透明釉　高台（段地部）：無施釉
69	17	Q3	SX05 南東部 層下層	陶器	皿	底部	-	(10.0)	残（1.6）		高台：回転ケズリ 蛇の目高台	内面：透明釉、白化粧土、染付 内面：白化粧土、コバルト型紙摺 底面：透明釉、墨書　高台：露胎
70	73	-	SX05 北東部④	磁器	仏飯器	口縁部～底部	(6.3)	(4.1)	5.2			内面～外面・底面：透明釉　外面：赤絵 高台（段地部）：底面：無施釉
71	4	Q3	SX05 南東部	磁器	香炉?	口縁部～体部	(6.8)	-	残（2.6）		内面：回転ナデ	外面～口縁部：透明釉、上絵付、赤絵 内面：透明釉
72	15	Q3	SX05 南東部 層下層	磁器	香炉	口縁部～底部	(7.0)	-	残（2.9）		内面：回転ナデ	内面～外面：コバルト塗り釉
73	96	P3Q3	SX05 東土手	磁器	蓋物	口縁部	(7.3)	-	残（3.25）			外面～口縁部：透明釉、上絵付 内面上部：無施釉内面：透明釉
74	61	Q3	SX05 北東部⑤	磁器	徳利?	体部～底部	4.0	3.9	4.05			外面：透明釉、ウロエブリント 内面・底面：透明釉　底面：蝋燭
75	66	-	SX05 北東部⑤	磁器	蓋	口縁部～底部	(9.9)	-	残（2.8）			外面：銅版染付　内面：透明釉　下部：無施釉
76	83	P3Q3	SX05 南西部⑤	磁器	花入れ	口縁部～底部	(1.3)	3.0	11.55			内面～外面：透明釉　底面：透明釉 高台（段地部）：無施釉　外面：銅版染付
77	153	Q3	K1	磁器	器物	口縁部～底部	10.9	7.0	7.5		高台：型成形	内面～外面：透明釉
78	84	P3Q3	SX05 南西部⑤	磁器	?	体部～底部	-	7.3	残（8.4）			内面～外面：透明釉　外面：上絵付 底面：無施釉
79	36	P3Q3	SX05 北西部 層下位 SX05 北東部⑤	磁器	碗	口縁部～底部	(13.0)	(5.4)	5.9		高台：回転ケズリ	内面～外面・底面：透明釉 底面：染付、銘文
80	177		SX05	磁器	急須		8.0	8.2	8.2	最大径（把下部）：9.4 最大径（把下部）：14.6	底面：ナデ、指圧痕	外面：型紙摺絵（雪輪に鶴）、染付、布目 絵付：鉄釉　注ぎ口：鉄釉　内面：布目
81	38	P3Q3	SX05 北西部 層下位 SX05 北西部 層縁より上位	磁器	碗	口縁部～体部	(7.6)	-	残（4.1）			内面～外面：呉釉、鉄絵、兎頭絵、草花文
82	11	Q3	SX05 南東部 層下層	陶器	水注	口縁部～底部	6.5	4.3	4.3	最大径：9.4	土管：輪成形 注ぎ口：ロクロ成形 高台：回転回り出し	底面：呉釉、染付、兎頭絵
83	25	P3Q3	SX05 南西部④ SX05 北西部 層下位	陶器	皿	口縁部～体部	(14.0)	-	残（2.6）		口縁部：波状の打ち欠き？	内面～外面：呉釉、白化粧土で同心円状刷毛目
84	9	Q3	SX05 南東部 層下層	陶器	皿	口縁部～底部	(14.0)	(6.4)	3.3			内面～外面：白化粧土、刷毛塗り 内面～外面・底面：呉釉 高台：釉剥ぎ多い
85	10	Q3	SX05 南東部 層下層	陶器	皿	口縁部～底部	(14.0)	(6.6)	3.3			内面～外面：白化粧、刷毛塗り 内面～外面・底面：呉釉 高台：露胎
86	31	Q3	SX05 南東部 層ウ下げ	陶器	小皿	口縁部～底部	7.3	4.3	1.6		外面：回転ナデ 底部：回転糸切	内面～外面・底面：呉釉
87	8	Q3	SX05 南東部 層下層	陶器	碗	口縁部～底部	(12.8)	(6.0)	5.2			内面～外面：呉釉、鉄絵 内面：白化粧土、鉄絵、兎頭絵、透明釉 高台：露胎
88	52	Q3	SX05 北東部⑤	陶器	碗	体部～底部	-	(6.0)	残（3.0）		外面・高台：底部：回転ヘラケズリ 削り出し高台	外面：呉釉、鉄絵 内面：呉釉 高台（内側）：刻印「素石?」
89	6	Q3	SX05 南東部 層下層	陶器	鉢	口縁部～底部	(22.0)	(8.0)	10.4		外面・底部：回転ケズリ 内面：ナデ、回転ナデ 高台：削り出し	内面：トチン痕 底面～外面：石石痕
90	2	P3Q3	SX05 南西部②	陶器	徳利	体部～底部	-	11.5	残（21.2）	最大径 13.6	外面：回転ナデ 鐵釉：打ち欠き 底面：回転ケズリ	内面：呉釉つけかけ、鉄絵 内面：呉釉 底面：呉釉、ハケ塗り
91	92	Q3	SX05 南西部 カワラケ集中	陶器	徳利	口縁部～体部	3.6	-	残（14.0）			内面～外面：呉釉 外面：鉄絵

表5　出土遺物観察表その4

遺物番号	実測番号	遺構 調査区・グリット	遺構名・層位等	区分	器種	部位	法量（cm） 口径	底径	器高		調整等	特記事項
92	151	Q3	K1	陶器	徳利	底部	-	12.2	残（6.6）		底部：回転ケズリ 内面：回転ナデ	外面：灰釉 底面：粕かき落とし 内面：染付
93	33	Q3	S305 南東部 掘りトイ	陶器	碗	口縁部	-	-	-			外面：灰釉なかしかけ　内面・口縁部：鉄釉
94	7	Q3	S305 南東部 最下層	陶器	碗	口縁部～体部	15.2	-	残（7.1）			内面～外面：鉄釉、カキ釉
95	91	P3.Q3	S305 南西部⑤	陶器	火鉢	口縁部～体部	(21.9)	-	残（10.1）		内面：回転ナデ	内面～外面・口縁部：灰釉 外面・口縁部：白釉、緑釉跡 内面：鉄釉、うのこ釉
96	78	P3.Q3	S305 南西部④	陶器	鉢	口縁部	(22.2)	-	残（3.2）			内面～外面：灰釉
97	1	Q3	S305 南東部 ケクラ集中より下 同層まで	陶器	大甕	口縁部	-	-	残（25.1）			内面：雑なナデ 外面：丁寧なナデ
98	70	-	S305 北東部	陶器	七厘	口縁部	-	-	残（10.5）		内面：ヘラミガキ 外面：板ナデ 筒側面：ナデ	内面：粘土接合痕あり 口縁部：煙付着、粘付痕あり
99	26	P3.Q3	S305 北西部 同層より上位	陶器	七厘さな	完形	-	-	1.0	残：9.0	板ナデ、一次穿孔、型成形	底面：薄れ砂
100	88	P3.Q3	S305 南西部⑤	陶器	七厘	底部？	-	(10.4)	残（7.7）		外面下部：縦方向の板ナデ 外面上部：縦方向のヘラケズリ、板ナデ 内面：ヨコナデ 三脚部：ヘラケズリ	内面～外面・口縁部：煙付着、穿孔3か所
101	175		K1	焙烙	焙烙		(42.0)	-	6.4		内外面・口縁：回転ナデ	外面：赤彩 内面：ハケによる赤彩、煙付着
102	23	Q3	S305 南東部 最下層	陶器	焙烙	口縁部～体部	(36.6)	-	残（5.8）		外面：ケズリ、ナデ 内外面・口縁部：ヨコナデ	内面～外面：煙付着
103	43	P3.Q3	S305 北西部 最下位	陶器	焙烙	口縁部	(38.2)	-	残（3.4）		内外面・口縁部：回転ナデ 外面：回転ケズリ	外面：煙付着、二次的被熱
104	44	P3.Q3	S305 北西部 最下位	陶器	焙烙	口縁部	-	-	-		外面：回転ケズリ 内面・口縁部：回転ナデ	
105	95	P3.Q3	S305 東土中	陶器	焙烙	口縁部	-	-	残（2.4）		内面・口縁部：ヨコナデ	外面：煙付着
106	94	P3.Q3	S305 東土中	陶器	焙烙	口縁部	-	-	残（4.0）		外面：ナデ 内面：ヨコナデ	内面～外面・口縁部：煙付着
107	179		S305		型炉		21.0	22.2	9.7		外面：ミガキ 内面：ロクロナデ 高台：ロクロナデ 三脚：ナデ、ミガキ、ロクロナデ	外面：鉄付着、穂跡、鐵子口縁付 内面：煙付着、一部被熱あり
108	21	Q3	S305 南東部 最下層	陶器	擂鉢	底部	-	(16.4)	残（4.3）		高台：回転ナデ	外面：底面：鉄釉
109	87	P3.Q3	S305 南西部⑤	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	残（4.85）		内面：すり目	内面～外面：鉄釉
110	5	Q3	S305 南東部	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	残（4.1）			内面～外面：鉄釉 内面：櫛目
111	93	P3.Q3	S305 東土中	陶器	擂鉢	口縁部	-	-	残（4.3）			内面～外面・口縁部：銅釉
112	97	P3.Q3	S305 東土中	瓦	軒丸瓦		-	-	-	表厚：（14.6） 内径厚：（5.3）	外面：ヘラナデ 内面：板ナデ、ナデ	巴文（左巻き）、珠文（6つ現存）
113	42	P3.Q3	S305 北西部 最下位	軟陶質	行平鍋	口縁部	-	-	残（2.3）	最大径：（14.2）		
114	32	Q3	S305 南東部 掘りトイ	陶器	蓋	口縁部～つまみ部	-	-	（4.5）	つまみ径：（3.7） 厚：（15.9）	縁：回転ナデ	内面～外面：灰釉 口縁部：調整
115	69	-	S305 北東部⑤	陶器	鍋	口縁部～体部	-	-	残（8.6）			内面～外面：灰釉 外面下部：煙付着
116	40	P3.Q3	S305 北西部 最下位	軟陶質	行平	口縁部～体部	(19.8)	-	残（5.8）		外面：回転ケズリ	外面・口縁部・把手：煙付着、二次的被熱 内面・口縁部・把手：透明釉
117	89	P3.Q3	S305 南西部⑤	陶器	土鍋	口縁部	(18.9)	-	残（3.2）			内面～外面：透明釉 把手付
118	46	Q3	S305 北東 P S305 南西部⑤	陶器	土鍋	口縁部～底部	(15.3)	(7.0)	5.25		内面：ナデ	外面：底面：煙付着 口縁部・把手：透明釉 付把手
119	90	P3.Q3	S305 南西部⑤	陶器	土鍋	口縁部	(15.2)	-	残（3.7）		外面下部：回転ケズリ	内面～外面：透明釉 外面下部：二次的被熱
120	41	P3.Q3	S305 北西部 最下位	軟陶質	行平	口縁部～体部	(15.0)	-	残（4.4）		外面：回転ケズリ	内面～外面・口縁部：透明釉 外面：煙付着、二次的被熱
121	20	Q3	S305 南東部 最下層	陶器	蓋（土瓶）	つまみ部	-	-	残（1.4）	つまみ径：1.5	つまみ：ケズりくぬ 内面：回転ナデ 高台：調整	つまみ：灰状釉、梅文型、鐵釉
122	22	Q3	S305 南東部 最下層	陶器	急須	口縁部	(9.0)	-	残（2.7）			外面：印花
123	24	P3.Q3	S305 北西部 同層より上位 S305 北西部 最下位	陶器	土瓶	口縁部	(9.8)	-	残（4.6）		上部：回転ナデ	外面：灰状文、鐵釉 内面：銅釉 上部（内側）：鐵釉、灰釉
124	65	-	S305 北東部⑤	陶器	蓋	口縁部～体部	(8.3)	-	残（1.65）		外面（上）：ヨコナデ 外面（中）：回転ヘラケズリ 外面（下）：回転ナデ 三脚部：ヘラケズリ 三脚部：ヨコナデ 内面：板ナデ	外面下部に線刻文
125	71	Q3	S305 北東部⑤	陶器	植木鉢	口縁部～底部	(10.0)	(9.25)	2.4		内面：ユビナデ 底部：ナデ	外面・口縁部：白釉 付高台（4つ）
126	86	P3.Q3	S305 南西部⑤	陶器	灯明皿	口縁部～底部	(7.1)	3.8	1.4		内面：ナデ 底部：回転糸切痕	外面：一部灰釉 内面：灰釉
127	29	Q3	S305 南東部 掘りトイ（焼成より上位）	G製品	印鑑		-	-	6.1	ネテ：4.4 ヨコ：4.0		
128	28	Q3	S305 南東部 掘りトイ（焼成より上位）	銅製品	不明		-	-	-			
129	45	P3.Q3	S305 北西部 最下位	ガラス製品	ランプシェード	シェード部分	-	-	-		型成形	
130	62	Q3	S305 北東部⑤	ガラス製品	瓶	完形	1.8	3.95	8.55			縁ぎ口あり
131	63	-	S305 北東部⑤	ガラス製品	スポイト蓋	完形？	1.6	-	残（5.0）			胴部に線刻あり
132	64	-	S305 北東部⑤	ガラス製品	瓶	完形	2.05	2.7	3.5			胴部（内側）：線刻あり
133	30	Q3	S305 南東部 掘りトイ（焼成より上位）	ガラス製品	小瓶	完形	1.4	1.8	5.5			
134	80	P3.Q3	S305 南西部⑤	ガラス製品	瓶	口縁部～底部	-	-	残（6.15）			縁ぎ口あり 口縁部に短上あり
135	176-1	-	S305	土製品	土人形		-	8.5	（14.0）	幅：15.5		表裏合わせ線、線跡あり

表6　出土遺物観察表その5

遺物番号	実測番号	遺構		区分	器種	部位	法量（cm）				調整等	特記事項
		調査区・グリット	遺構名・層位等				口径	底径	器高			
136	77	P3.Q3	SX05 南西部④	土製品	土人形		-	-	-	高子（6.7） 幅（4.2） 厚行（2.4）		
137	50	Q3	SX05 北東部⑤	土製品	-		-	-	残（3.85）	底部：コビ押さえナデ	外面：透明釉、部分的に凝釉 部分的に調整あり	
138	48	Q3	SX05 北東部⑤	土製品	-		-	-	残（4.0）	外面：コビナデ	内面（全体）：透明釉 内面（上部）：凝釉 内面（中部）：白釉	
139	16	Q3	SX05 南西部⑤下層	土製品	土人形	前面	長 5.4	幅 4.3	厚 1.8		外面：型成形 内面：手づくね	無釉、無彩色
140	76	P3.Q3	SX05 南西部④	土製品	土人形	-						
141	72	-	SX05 北東部④	磁器	人形	-		-	-	脚子： 残（10.3） 厚子：2.65		
142	75	P3.Q3	SX05 南西部④	土製品	土人形		-	-	-	高子（4.8） 幅（6.4） 厚行（2.5）		前部と腰部が片方欠損 腰部に埋め込み鉄線あり 胴部に一次穿孔あり
143	81	P3.Q3	SX05 南西部③	磁器	人形	-						
144	133	O4	SX02 ベルト状に残した部分	陶器	土師器	口縁部～つまみ部	-	-	2.5	残：9.2 つまみ厚：1.3		
145	134	O4	SX02 ベルト状に残した部分	陶器	小皿	口縁部～体部	(6.8)	(3.4)	1.3		底面・内面（下部）：重ね焼痕跡	内面～外面：鉄釉
146	135	O4	SX02 ベルト状に残した部分	陶器	灯明受皿	口縁部～体部	(12.2)	(5.8)	2.4		外面・口縁部（内側）：重ね焼痕跡	内面～外面・底面：鉄釉（ハケぬり）
147	136	O4	SX02 ベルト状に残した部分	陶器	仏飯器	口縁部～脚部	3.7	-	(3.8)		高台：回転ケズリ、スリ痕 口縁部・脚部：意図的な打ち欠き	内面～外面：灰釉 外面：貫入釉
148	137	N4	SX03 ベルトより南	土師器？	椀	底部	-	(8.2)	残（2.1）		外面：ハケ	底面：調整 黒斑あり、全体的に摩滅
149	139	N4	SK09	陶器	急須	口縁部～体部	(7.0)	-	残（4.7）		受部：回転ケズリ	内面～外面：透明釉
150	140	N4	SK18（焼土）	土師器？	鍋	口縁部	(22.2)	-	残（6.1）		外面・口縁部（内側）：ハケ目 内面：指頭圧痕	内面：粘土継痕
151	138	Q5	SK06 底面	須恵器	坏身	口縁部～体部	(13.4)	-	残（4.4）	最大厚：（1.6）	内外面：回転ナデ 外面（下部）：回転ケズリ	外面：降灰あり
152	143	P4	SD01	陶器	徳利	口縁部	-	-	-			内面～外面：鉄釉 内面：一部銀釉
153	145	M3	SD03	陶器	水鉢	口縁部	(10.6)	-	残（5.5）		内面：回転ナデ	外面・口縁部：水色の釉
154	144	O4	SD01 として掘った土坑	磁器	椀	口縁部～底部	(9.8)	3.4	4.1		高台（胴部）：回転ケズリ	内面～外面・底面：透明釉 口縁部：銹釉
155	141	-	SK20	須恵器	壺	口縁部	(19.6)	-	残（4.8）		内外面：回転ナデ	
156	142	P4	SD01	土師器？	5寸皿	口縁部	(9.2)	-	残（2.2）		外面：ヨコハケ、タテハケ 内面：粗ハケ	
157	146	L3	PS8	土師器？	鍋	口縁部						
158	147	Q3	K1	陶器	碗	口縁部	-	-	残（1.4）	厚：（9.4）	外面：回転ナデ 口縁部・内面：回転ケズリ	
159	166	P3	K6	陶器	さや管	口縁部	(23.8)	-	残（3.0）		型成形	
160	162	P3	K4	磁器	植木鉢	口縁部～体部	(14.2)	-	残（11.9）		内面：回転ナデ	外面：凝釉 内面：一部透明釉、煤付着
161	163	P3	K4	磁器	ガイシ	完形	-	-	5.1	厚：3.6	底部：型成形ののち中央部分を穿孔	外面・口縁部：透明釉
162	160	P3	K4	陶器	段重	口縁部～底部						
163	161	P3	K4	磁器	皿	口縁部～底部	12.8	7.0	2.5		高台：型成形	内面～外面・底面：透明釉
164	165	P3	K4	磁器	不明	-	(28.2)	(25.2)	6.3		粘土貼り付け部分にナデ	外面に二次的被熱 外面上部に銹分・銹分付着
165・166	167	P3	K6	磁器	形鉢蓋	頂部～口縁部						
167	169	L3	K16	磁器	椀	体部～底部	(9.8)	3.1	4.6		高台：型成形	内面～外面・底面：透明釉
168	174	P3	K6	瓦	不明	-						
169	172	P3	K6	瓦	軒瓦	-						
170	171	P3	K6	瓦	軒瓦	-						
171	173	P3	K6	瓦	軒軒瓦	-	-	-	-	瓦当厚：9.2 全長：（7.4） 幅：（12.2） 厚：1.2	全体：型成形 外：面取り 板ナデ	
172	164	P3	K4	陶器	瓦	-	-	-	7.6	幅：19.4 柱子： （15.0）	板ナデ	一部欠損あり

名古屋市文化財調査報告 114

埋蔵文化財調査報告書 97

新尾頭１丁目遺跡

2023 年 3 月 31 日
編集　名古屋市教育委員会文化財保護室
　　TEL（052）972-3268
発行　名古屋市教育委員会
印刷　西濃印刷株式会社